

# 都市の子育て支援環境の比較研究

北海道大学 金子 勇

## 1 目的

この連続報告は、少子化関連でのテーマうち①未婚率の上昇、②既婚者の子育て支援、③児童虐待、のなかの②に該当するものである。2013年日本では、32年連続の年少人口数の減少と39年連続の年少人口率の減少という少子化動向が定着した。それに併行して政令指定都市で1.09(2011)という最低の合計特殊出生率を記録している札幌市において、社会的共通資本である子育て支援施設を媒介とした社会的支援ネットワークングに関する研究が本報告の主目的になる。

## 2 方法

そのために、調査対象としては札幌市子育て支援総合センター、いくつかの児童会館、複数の子育て支援のNPOを取り上げて、そこでの利用者に対して、半構造化インタビューによる2人1組の面接調査を行った。研究は2009年度から開始しているが、今回使用するデータは2012年6月から2013年3月までに収集した分に限定した。報告者それぞれがこれまでに40人から80人くらいのインタビュー記録を作成している。その記録をデータとした分析が報告の基礎になる。

具体的なテーマの一つは、社会的共通資本である支援施設の利用者がどのような社会関係資本を持ちうるのかの解明にある。このために支援の5類型ともいべき自助、互助、公助に新しく共助と商助を加えて、総合化しようとした。さらに5つの支援との組み合わせのために、コミュニティレベルの集合活動モデルをとって3類型を創造した。

第1段階 Coming together is a beginning. (実践的集まりの創造から開始)

第2段階 Keeping together is progress. (実践的集まりの維持が前進)

第3段階 Working together is success. (実践的集まりの活用が成功)

研究目的の二つ目は各種の子育て支援を制度的と関係的、表出的と道具的に分類したうえで、それぞれの実態を探求して、子育て負担改善などへの諸概念の有効性を測定するところにある。

三点目としては、中国と韓国の留学生が北京とソウルで同じ手法で獲得したデータにより、落合恵美子らによるアジア都市部の子どものケアをめぐる先行研究の追跡調査を試みている。もとより比較研究の開始段階ではあるが、念頭にはこれも存在する。

## 3 結果

センターも児童会館も交友関係、俗にいうママ友創出の基盤を提供していた。行政が提供する社会的共通資本を媒介とした公助は、利用する市民同士の互助や社会関係資本に向かう共助を引き出す契機になっている。同時にそれは育児に付随する経済面、精神面、身体面、時間面の4負担を軽減していた。調査からは「交友関係の支えが負担を緩和する」という発見が得られ、施設利用者間のストリングスによるストレングス感の強化がこれを促進する。同時に、ママ友間で相互に作用しあう共存関係は世代間継承を促し、次世代育成の土壌形成という関係資本の効果として機能する。

## 4 結論

少子化関連テーマのうち、②既婚者の子育て支援に関連した今回の半構造化インタビューによる調査結果は、5つの支援形態と3つの集合行動の組み合わせにも有効であり、残された分野である③児童虐待問題にも応用可能である。児童虐待解決には事前介入と過程介入と事後介入の3点が不可欠であり、共助とworkingの最適解を求めることになる。①未婚率の上昇については、未婚者を取り込んだ社会全体での共助を軸とした公助としての「子育て基金」の提言があるので、いずれ3テーマの経験を踏まえて分析と診断の観点から「少子社会」を総合化したい。

文献

金子勇, 2011, 『コミュニティの創造的探求』新曜社.

金子勇, 2013, 『「時代診断」の社会学』ミネルヴァ書房.